



六郷用水取り入れ口

六郷用水は、徳川家康の命により慶長2年(1597)から16年にかけて代官小泉次大夫吉次によってつくられた灌漑用水路で、次大夫堀とも呼ばれています。

この用水は、多摩川の水をこの辺りで取り入れ、市役所の裏で野川と合流し、世田谷区を経て、大田区に至り、全長約23kmに及びました。市内でも和泉、猪方、岩戸の水田に利用されてきましたが、この辺りは昭和40年に埋め立てられました。

写真は、多摩川から見た取り入れ口で、右側が現在地付近、左側が玉翠園で、昭和初期のものです。

平成3年3月
狛江市教育委員会

作品番号 : 46601627

作品タイトル : 六郷用水取り入れ口の碑

作家 :

キャプション :

コレクション : OPO

ソース :

撮影地 : 東京都 狛江市

撮影年月日 : 2018/5/11

学術名 :

クレジット表記 : (c)OPO / Artefactory

モデルリリース : なし

プロパティリリース : なし

ピクセル数 : 5069px × 3432px

印刷サイズ : 42.9cm × 29.1cm

データサイズ : 11.9MByte

ファイル形式 : JPEG